

令和 7 年度
学校自己評価報告書

令和 8 年 6 月 2 日
学校法人 中央医療学園
中央医療技術専門学校

令和7年度 学校自己評価について

1. 教育理念・教育目標
2. 学校運営
3. 教育活動
4. 学修成果
5. 学生支援
6. 教育環境
7. 学生募集と受け入れ
8. 財務
9. 法令等の遵守
10. 社会貢献

令和7年度 学校自己評価について

学校法人 中央医療学園 中央医療技術専門学校は、東京都葛飾区で診療放射線技師を養成する教育機関として、昭和 34 年に開校しました。実践的な職業教育により、最前線で活躍できる診療放射線技師の育成を行っております。

本校では、平成 30 年度より、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考として評価項目を作成し、現状・課題の把握および改善策について検討・実施いたしました。

評価にあたっては、平成 14 年度から実施している学生授業評価アンケートの今年度の結果なども踏まえて行っています。また、この学校自己評価の結果を生かして、教育の質を向上してまいります。

1. 対象期間

令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日

2. 実施方法

学内に「学校自己評価委員会」を設置し、委員会で評価を行った。

- ・委員会の構成は、委員長を学校長とし、委員は法人事務局長、教務部長、法人事務局次長（財務）、教務課長、学生課長、学校総務課長（事務長）とした。
- ・評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に評価段階を 4 段階（4：大変良い 3：良い 2：あまり良くない 1：良くない）とし、各項目について評価をした。
- ・評価は、年一回年度末に行うこととした。
- ・評価結果の公開は、本報告書をホームページに掲載することにより行った。

1. 教育理念・教育目標

	評価項目	評価
1	教育理念・目的・育成人材像は定められているか	4
2	特色ある教育が行われているか	4
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を持っているか	4
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4

〈現状〉

- ・本校の目的は、医療の発展と国民の健康に寄与する診療放射線技師の養成にある。そのため、教育理念として「現場で活躍できる職業人の育成」を掲げ、入学直後から病院見学を取り入れるなど、より実践的な教育を行っている。
- ・教職員並びに全生徒が同じ校章を身に付けることにより、結束力や、連帯感が高まることを目的とし、入学時に校章を配布している。
- ・英語の授業は、英会話教室NOVAより外国人講師を招いて、医療現場で使用する会話に重点を置いた授業を実施している。
- ・教員が数グループを担当してグループ研究を行い、研究発表会を開催している。
- ・臨床実習終了後に報告会を開催し、全学生に発表の機会を与えている。
- ・本校は、診療放射線技師を養成する単科の学校であり、開校以来 67 年の歴史をもち、日本で最も多くの診療放射線技師を育てている学校の一つである。
- ・医療界のニーズとして、診療放射線技師教育には 4 年制教育が求められている。そのニーズにこたえるため、令和 9 年 4 月に横須賀での大学開学を目指して現在準備を進めているが、これに伴い、昨年度で学生募集を停止し、専門学校は今年度の新入生が卒業した時点で閉校となる。
- ・ホームページに「建学の精神として」理念の概要を明記し、本校を志望する受験生および保護者に知らしめている。
- ・令和 4 年のホームページ更新の際、専任教員全員の担当教科を明記し、顔写真付きで学生へのメッセージを掲載し、教員紹介の頁を充実させている。

〈今後の改善方策〉

- ・令和 4 年度より、放射線技師の英会話力の向上を目的として、英会話教室NOVAから外国人講師を招聘し、学生に実践的な英会話授業を提供しているが、今後も継続する。
- ・令和 4 年度より、学生に学校への愛着を深めさせるため、週に一度、授業開始前に校歌を流しているが、今後も継続する。
- ・校訓である「深い人類愛」、「強い探究心」を前面に掲げ、学力・技術力・研究心を身につけることはもちろん、将来医療技術者として必要となる人に対する思いやりや心遣いの重要性を、より一層力を入れて教育していく。また、診療放射線技師にとって必要な「深い洞察力」を身につけられるような教育を行う。上記については、学校説明会などを通して積極的に広報していく。

2. 学校運営

	評価項目	評価
1	目的に沿った事業計画が策定されているか	4
2	運営組織や意思決定機能は規則等において明文化され、有効に機能しているか	4
3	人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
4	情報のシステム化による業務の効率化が図られているか	3

〈現状〉

- ・理事長が出席する役職者会議を、毎月開催しており、学校運営に係わる課題、問題点などの対策を講じる場である。会議を通じて理事長は、学校の現状認識ができ、同時に役職者が認識を共有し、経営に関する意思決定を行っている。
- ・役職者会議での決定事項は、学校の職員・教員合同の全体会議で報告し、学校運営の意思統一を図ると共に、役職者会議、全体会議のそれぞれの議事録を作成し、齟齬が生じないよう情報を共有している。
- ・本校の事業計画の策定については、次年度の予算や授業の運営がある程度目処がたった時点で、予算と授業運営に沿った単年度の事業計画を策定している。
- ・規程集（学校法人寄附行為・就業規則・組織規程・給与規程・研修規程等）は教務室およびファイルサーバーの共有のファイルに置いてあり何時でも誰でも閲覧できるようにしている。また、改正後は速やかに最新版に更新している。
- ・令和8年4月1日施行に向けて学則の改正を行った。内容については、学年及び学期の終始期について、学年毎に前期の終期、後期の始期が異なるため、毎年、校長が学年ごとに変更できるように変更した。進級の規定について、必要に応じて、校長が進級の基準を設け、進級させることができるように変更した。留年・在学期間について、最高学年留年生は最終の医用放射線の試験で基準点を超えた場合、「1年に限り最終学年を再履修できる」となっていたが、これを削除し、退学については在学期間を超えた者とした。その他、学校教育法改正に伴う変更を行った。主なものは、学校評価について「本校は、その教育の一層の充実を図り、本校の目的及び社会的使命を達成するため、本校における教育活動等の状況について毎年度自ら点検及び評価を行うとともに、5年に一度、外部の識見を有する者による評価を行うものとする。」の条文を加入した。

〈今後の検討要綱〉

- ・令和6年度にファイルサーバーにある共有フォルダ内のファイルが新しく整備され、過去に使用したもので今後保存しておくべきもの、必要のないものを整理した。今後もサーバーの容量の確保と事務の効率化を図るため、必要なものだけを保存するように指導していく。
- ・現在使用しているサーバーと教務室等で使用しているWi-fiのアクセスポイントは導入後6年を経過しているので、学校の閉校も視野に入れつつ、費用対効果を踏まえたうえで、導入の可否を検討していく。

3. 教育活動

	評価項目	評価
1	カリキュラムは体系的かつ適正に編成されている	4
2	人材ニーズ等に合わせ、カリキュラムの見直しが行われている	3
3	成績評価・単位認定の基準は明確に設けられている	4
4	授業計画が明文化され、それにもとづく教育を実施している	4
5	授業評価の実施、評価体制が整っている	4
6	教員の資質、指導能力向上に対する方策を採っている	4
7	資格取得の指導体制はある	3

〈現状〉

- ・診療放射線技師養成所指定規則の改正に伴い令和4年度より新カリキュラムにより授業を行っている。新カリキュラムの実習においてOSCE（実習前の実技試験）及び、診療放射線技師タスクシフトの講義・実習を取り入れ、現場での人材ニーズに合わせた講義・実習を取入れたカリキュラムを計画し実行している。
- ・成績の評価は学則に則って行われており、講義については期末試験、実習については実習項目ごとに提出されるレポートをもって評価されている。また、最終的な単位の認定、進級、卒業の判定は学年末に行われる専任教員による教務会議によって行われた。進級要件など、学則の運用に必要な細目は細則に定め、実施している。
- ・授業内容・計画については、年度初めにシラバスを用いて、教科の目標、評価の基準などを学生に示した。シラバスは、ホームページに掲載している。
- ・例年、授業評価については、学期ごとに学生に授業アンケート（マークシート・自由筆記・オンライン）を行い、教員にその内容をフィードバックしている。
- ・最上級学年においては、診療放射線技師国家試験に向け、月に1回程度の模擬試験と夏季補講を実施、学生の学力の把握に努めた。また、試験結果において指導の必要が認められる学生については、個別に課題を与え指導している。
- ・最上級学年の国家試験対策として、解いて覚える記憶アプリ Monoxer®を使用している。本校教員によるオリジナルコンテンツを作成し、前期より学生に公開し実施している。
- ・本年度も学業に興味を向かせるために、グループ研究および発表会を行った。
- ・入学前教育を行い基礎学力の向上を図っている。

〈今後の改善方策〉

- ・留年生対策について、臨床実習中は別途時間割を組み、補講を継続する。
- ・授業終了後に学内での学習を行いやすくしてゆき、質問しやすい環境を作っていく。

- ・国家試験形式の模擬試験を月に1回程度行う。模擬試験の結果で成績不良者には課題を与え指導を行う。また夏休み中は対象者に補講を行う。
- ・出席率向上を目指し、毎日、学生の出席状況を把握する。無断欠席をした学生には電話連絡をし、状況を確認のうえ出席するように促す。
- ・本校では、診療放射線技師国家資格取得が最も大きい目標の一つであるので、毎年、最上級生の指導については、担任を中心に全教員でより良い方法を常に議論・検討していく。
- ・既卒者の国家試験合格率向上のための対策を検討する。
- ・講義資料・補講資料等のオンライン閲覧ができるようにしていく。

4. 学修成果

	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	3
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	3

〈現状〉

- ・学生課の中に、就職担当を置き求人先や学生との対応を行っている。最上級生に対して例年4月中に就職活動を行うにあたって、ガイダンスを実施している。また、履歴書の書き方や面接の受け方の指導を行うとともに、希望する学生については、別途履歴書の添削や面接指導を行った。
- ・学生の就職希望施設に見学の取次ぎや説明会の要望をお願いした。
- ・診療放射線技師国家試験の問題集・解説集を学校独自で作成し、最上級学生のみではなく昼間部2年生、夜間部3年生にも配布し、早期に国家試験に向けての意識を持つように指導している。
- ・1年時から、専門科目を取り入れることによって診療放射線技師を目指すモチベーションを維持してもらう。また、例年、1年時春に、病院を見学し医療現場での業務内容を見てもらう事により、将来の自分をイメージさせ勉強に活かすようにしている。本年度においては、6月7日（土）に東京慈恵会医科大学附属病院、東京慈恵会医科大学葛飾医療センター、東京慈恵会医科大学柏病院の3施設に分かれて実施した。
- ・在学時から研究に興味をもっている学生は、例年、グループ研究として教員の指導のもと実験・研究を行い、纏めたものを日本放射線技術学会などで発表している。
- ・6月28日（土） 中央医療技術専門学校同窓会主催の中央放射線学会にて研究発表を行った。
- ・令和8年3月7日（土） 第35回横須賀三浦・横浜南部放射線技師会合同勉強会にて研究発表を行った。
- ・卒業後、大学や大学院を目指す学生に向けて、編入学試験情報を掲示している。
- ・卒業時に、任意ではあるが卒業後の住所・就職先などを報告してもらい卒後教育などの連絡に充てている。
- ・国家試験不合格者には、学校で実施している国家試験形式の実力試験・医用放射線試験に参加を推奨している。また、希望者に対して本校教員が作成した国家試験解説動画の閲覧を実施できるようにした。
- ・中途退学や不登校の要因の1つに学生のメンタル面の弱さが考えられるため、専門のカウンセラーを置いてメンタルケアを行っている。

〈今後の改善方策〉

- ・基礎力リサーチを行い学生個々の学力や修学に対するモチベーションなどを把握していく。
- ・既卒者の希望者に対して国家試験解説動画の閲覧を継続していく。

5. 学生支援

	評価項目	評価
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
6	学生の生活環境への支援は行われているか	3
7	保護者と適切に連携しているか	3
8	卒業生への支援体制はあるか	3

〈現状〉

- ・近年の求人数については減少傾向であり、昨年度においても同様で前年よりも減少している。就職支援については4－1「就職率の向上が図られているか」に記述している。
- ・求人情報についてはPDF化することにより校内のみに限らず、校外でも閲覧できるように配慮している。
- ・学生の進路の一つに大学への編入があり、その進路支援のため、編入情報の提供、入学試験指導（過去問題の提供や勉強方法のサポート等）を行っている。
- ・学生相談室を設け学生の精神的な悩みや友人との問題などに対する専門家によるカウンセリングを行っている。利用方法等についてはクラウド上の掲示や校内一斉メールにて学生に周知をしている。
- ・本年度においても引き続きカウンセラーの先生には前期授業の1教科を担当してもらい、臨床心理士の立場から講義を実施していただいている。
- ・学生本人又保護者の経済的急変に備え、学校独自の奨学金制度を設けている。無利子の奨学金で、卒業後に定額を返還するシステムである。
- ・学生の健康管理として年一度の健康診断を行い、結果を学生に通知している。
- ・近隣病院マップを教職員と学生に共有している。
- ・課外活動は運動部としてバレー部、テニス部、など、文化部としてピエゾ（超音波）部、軽音楽部などがあり、若干の部費と活動場所を提供している。本年度においては、昨年度発足したバドミントン同好会が部として承認された。
- ・中央医療祭（学園祭）を学生主体で実施している。学生同士のコミュニケーションを図るとともに協力して一つのイベントを行う協調性や経済的、社会的適応能力を身に着ける事を目標として、学校として運営の補助や費用の負担等をしている。今年度においては、11月2日（日）に実施した。また、近隣の自治会の協力もあり近隣住民を含め多くの方々に参加いただくことができた。
- ・健康増進法を遵守し校内は全て禁煙としている。

- ・ラウンジに電子レンジ、給湯器を配置して、学生の飲食を補助している。
- ・保護者には半期ごとに成績送付、最上級生には模擬試験の成績送付や保護者会などを行っている。また、学生の勤惰を早く把握してもらうため、学生が一定数（原則同一授業3回）欠席したときは、学生の同意をとり保護者に連絡をしている。
- ・最上級生の保護者に対して、保護者会を設け学生の現況を説明することで国家試験に向けて保護者にも協力をお願いしている。今年度においては10月18日（土）に保護者会を対面形式で実施した。
- ・既卒者（国家試験不合格者）の希望者に対して、最上級学年に実施している実力試験および医用放射線試験の学内受験を再開した。本年度は2名の希望者に対応した。
- ・既卒者（国家試験不合格者）を対象に専任教員が作成した国家試験解説動画の閲覧を実施出来る環境を整え、ホームページや「かつしかだより」で告知し、8月末より希望者に対して実施した。本年度においては、解説動画3名、の申込があり対応した。
- ・既卒者に対しての図書室とラウンジの利用を実施した。
- ・既卒者の就職について、学生課の就職担当が在校生と同様に就職支援の対応をしている。
- ・学生の個人ロッカーを1号館教室内および4号館廊下に設置している。
- ・少し割高感はあるが、暖かく美味しい食事を提供するため、長期休暇期間を除き週1回（基本的に水曜日）キッチンカーの出店を依頼した。

〈今後の改善方策〉

- ・引き続き、履歴書の書き方および面接指導についての講義を実施してく。

6. 教育環境

	評価項目	評価
1	施設・設備は、教育上、充分に対応できるよう整備されているか	3
2	実習などについて、十分な教育体制が整っているか	4
3	防災に対する体制は整備されているか	3

〈現状〉

- ・4号館1階ラウンジと2階図書室にWi-Fiのアクセスポイントを設置している。
- ・欠席遅刻の連絡方法を専用のフォームを用いて教務室のパソコンで確認出来るようにしている。
- ・校内学生実習用放射線器具・設備に関しては診療放射線技師養成所指定規則に従って準備されている。学生の学習用図書は図書室に一万冊以上の蔵書があり、パソコンによる検索が可能である。
- ・臨床実習においても診療放射線技師養成所指定規則に従って行っており、事前に病院実習先の方へ説明会を行っている。
- ・指定規則の改定により、臨床実習の単位が増えたことにより臨床実習施設の拡充を行った。

(63施設→65施設)

- ・防災訓練は、行事予定に組み込めず実施出来なかったが、町内会の防災備蓄品の倉庫を学校で共有することで、連携を取ることが出来ている。
- ・夜間部募集停止による余剰掲示板を活用し、図書室専用の掲示板を設置し、図書室の利用率向上を図った。

〈今後の方策〉

- ・現在、放射線医療における医療機器は日進月歩の進化を遂げている。今後、最新の放射線医療に対応できるようにデジタル撮影装置などによる校内実習の実現や、コンピュータ社会への対応が可能な人材育成を行っていく。
- ・施設老朽化への対策は、令和9年度に横須賀で大学開学に向けて準備を進めていることを考慮しつつ、必要最小限で授業に支障を来さない様に修繕を行っていく。

7. 学生募集と受け入れ

	評価項目	評価
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
3	入学選考は、適正かつ公平な基準により行われているか	4
4	学納金は、妥当なものとなっているか	4

〈現状〉

- ・例年、パンフレットおよび学生募集要項を作成し、全国の受験生に対し配布を行っている。また、高校訪問のほか、Webでも学校説明会を行い、当校の特色や卒業後の進路などの説明を行っている。本年度においては、17回のオープンキャンパスのうち学校説明会を8回行い、4月・5月・6月はWebにて学校説明会を行った。
- ・オープンキャンパスでは、診療放射線技師国家試験の現状や就職に関する情報を説明している。校内見学において実際に当校の施設を見学してもらい、当校の特色を理解してもらっている。
- ・ホームページについては一部修正・改修するとともに、SNS（Instagram・YouTube）を活用した配信を行っている。また、広報活動として外部業者を経由した資料請求も多くあることから、オープンキャンパスの風景動画（OCストーリーズ）の配信を引き続き行った。
- ・当校の学生募集要項やホームページにおいて、国家試験合格率の結果報告や国家試験に対する学生受験対策の内容を掲載している。
- ・入試形態においては、昨年度からAO入試を導入し、今年度も7月と9月に2回実施した。また、昨年同様に、これまで2回実施していた推薦入学試験を1回にし、4回実施していた一般入学試験を5回とした。
- ・当校入学選考考査は、学内に入試委員会を設け入試問題を確認し、適切な試験問題が作成されているか検討を行った後、入学試験を実施して採点を行っている。
- ・入学選考考査は、AO入試では模擬授業と小テストおよびグループワークで選抜した。指定校推薦では小論文により選抜、推薦入試と一般入試は筆記試験（試験時間 60 分）により選抜した。全ての入学試験で受験生個人面接試験を行い、成績上位者および面接合格者の中より選抜を行っている。最終的な合格者は教務会議において最終決定される。
- ・学納金は同分野の学納金水準を把握、勘案し適正に設定している。必要な費用はすべて募集要項に記載しており、入学後に別途徴収することのないよう配慮している。
- ・京成立石駅の改修工事に伴い、学校の看板広告が撤去されている。令和8年度からは、横須賀周辺において、大学設置予定の看板を設置することになっている。

〈今後の検討要綱〉

- ・ 学校説明会は、12 月までは専門学校の説明と受験について案内していたが、年明けから次年度の受験を対象とした参加者（高校1年・2年生）が多くなっているため大学への案内も加えた。また、2月・3月は当年度受験対象者がいないため体験学習に切り替え、本校にある装置を実際に動かして放射線技師の仕事の実際を体験してもらう形にした事が好評だったので、次年度も横須賀で学校説明会が開催出来るまでは、この形での説明会を継続しながら、大学の案内をどう進めるか検討する。
- ・ 広報活動として高校訪問を行い、外部主催の学校説明会に積極的に参加する。
- ・ SNS（Instagram・YouTube）の配信は、これまで同様に進めるが、大学開設に関する案内も検討していく。

8. 財務

	評価項目	評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定していると言えるか	3
2	予算、収支計画は、有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について、会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

〈現状〉

- ・学生の定員確保が、収入の安定に繋がる。少子化及び大学進学指向の高まりが続く中、収支のより緻密な分析が必要となる。令和7年度は、学校において事業活動収支計算書の当年度収支差額はプラスとなった。前年度と比較して、収入においては4月1日現在の在学生総数が前年度より16名減少しており、それにより収入が減少している。支出においては、前年度から収入の減少が見込まれた為、より経費を精査することを心掛けた。前年度と比較して奨学金を除いた支出の合計は減少している。令和8年度より昼間部学生募集を停止するため、学生数の確保は厳しい状況になる。
- ・予算、収支計画については、各部門から予算立案書を提出してもらい、事業計画に基づき且つ前年度実績と比較をしながら予算案を作成している。入学者数及び在籍者数に注視し予算策定の基礎としている。学校においては令和7年度学生生徒等納付金の減少、授業料等減免費用負担金交付額の増加による補正予算を組み修正を行った。
- ・会計監査は、監事2名が事業説明を受けて、業務、財産の状況について監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会および評議員会へ報告している。令和7年度も私立学校法および寄附行為に基づき、監事2名で監査を行った。
- ・財務情報に翌期の事業計画・予算書を加えた本年度の事業報告書を教務室においてあり、誰でも閲覧できるようにしてある。平成30年度よりホームページに財務情報を公開している。

〈今後の方策〉

- ・令和8年度の入学者定員について、定員を大幅に満たすことができなかった。令和8年4月1日現在での在学生総数は前年度と比較して減少している。退学者を増やさない為の対策が必要となる。
- ・財務基盤の安定は学生数の維持が必要不可欠だが、並行して経費についても綿密に精査していく。令和8年度の予算編成は、経費の要否を慎重に判断、精査して行った。
- ・予算、収支計画については、事業計画、教育目標との整合性を図りつつ、各部門からの情報を正確に把握し、教育活動が計画通りに進行できるよう予算計画を策定していきたい。
- ・財務情報については、計算書については昨年までは簡素化したものであったが、詳細な計算書をホームページに掲載する。合わせて財務状況の概要、財務比率等を加える。昨年まで掲載をしていなかった寄附行為、役員等報酬規程についてもホームページに掲載する。

9. 法令等の遵守

	評価項目	評価
1	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4	自己評価結果を公開しているか	4

〈現状〉

- ・診療放射線技師養成所設置基準・指定規則等を遵守して学校運営を行っている。今年度は、臨床実習施設の変更、昼間部学生募集停止申出を行った。
- ・留学生の在留管理は、出入国管理及び難民認定法にしている。
- ・学生の成績等の学内掲示や保護者への送付については、事前に同意を得て行っている。また卒業後の住所、勤務先等の情報については、その取扱い毎に同意を得て取得している。
- ・自己評価委員会を設け評価している。評価後、委員会を開き項目ごとに検討している。
- ・個人情報の取り扱いについて個人情報保護方針（プライバシーポリシー）を明確にしてホームページで公開している。
- ・個人情報保護方針にしているホームページの資料請求（学校案内書）およびオープンキャンパス等の申込みフォームからの収集した個人情報を適切に保護している。
- ・卒業生が、ホームページから証明書発行手続の際に顔写真付きの公的身分証明書のコピー（運転免許証、パスポート、マイナンバーカード等）を郵送することで本人確認を行っているが、改姓した場合の本人確認方法が明確になっていなかったもので、改姓の事実が証明できる戸籍謄本や修正履歴付きの住民票等の原本を添付するようにした。
- ・平成 30 年度より自己評価結果をホームページで公開している。

〈今後の改善方策〉

- ・教職員・学生に対する法令等の遵守についてのセキュリティーポリシーの作成中である。

10. 社会貢献

	評価項目	評価
1	学校の教育資源を有効活用した社会貢献を行っているか	3
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	—

〈現状〉

- ・地域の技師会・研究会などの為に施設を提供している。今年度においては、8月31日（日）に日本放射線治療専門放射線技師認定機構の試験会場として提供した。
- ・8月9日（土）～10日（日）に日本放射線技術学会 画像部会のDRセミナーを行った。
- ・令和8年2月1日（日） 超音波画像研究会主催の腹部領域ハンズオンセミナーで会場を提供した。

〈今後の改善方策〉

- ・研究会等の施設提供においては、次年度以降も引き続き行っていく。